

評価指標	評価欄		評価内容				評価基準			
	自己評価	「評価項目」①の達成度	75%以上達成…A、50～74%程度達成…B、20～49%程度達成…C、20%未満達成…D							
	全校自己評価	「自己評価」②のB以上の割合	9割以上…A、7割以上…B、5割以上…C、5割未満…D							
	学校関係者評価	「全校自己評価」③、「成果と課題及び改善策」④の適切度	適切である…A、ほぼ適切である…B、あまり適切でない…C、不適切である…D							

評価項目①	自己評価②(%)				全校自己評価③	成果と課題及び改善策④	学校関係者評価	意見等
	職員による評価A～Dの割合							
	A	B	C	D				
学力向上	30	70	0	0	A	新課程実施に伴うカリキュラムの改訂は生徒の実態に即している。今後は、新学科開設(予定)に向けて、探究活動の時間を確保するなど、もっと本校の特色を出したカリキュラムの検討が必要である。授業研究週間の設定に伴い、ICTを活用した様々な授業形態を参考に多くの先生が授業改善を図っている。2学期に行った観点別評価に関する職員研修を通して、観点別評価が生徒の学習意欲を高め、学力向上にも繋がるよう工夫・改善を続ける必要がある。	A	○一人でも仲間同士でも学び合える良い環境・雰囲気があると感じています。ICTを活用した学びの充実をさらに推進してください。
自立した人間の育成	36	59	5	0	A	生徒会活動の自治活動を全面的に取り入れることを目標において、昨年度よりも生徒が主体となった実行委員会の組織が行事等で運営企画し、成功を収めることができた。「校則見直し」などの話し合いでは、生徒会、代議委員、風紀委員会を中心に活動・協議できた。生徒会での定例会も実施しており、昨年度より行事における準備計画や反省等もタイムリーに実施されていた。これからの行事において感染症対策を取り入れながら、生徒にも工夫した参加の仕方を考えていくべきである。今年度よりも早めに組織を編成し、生徒を主体とした活動のレベルアップに務めたい。また、全職員で、時間厳守や礼儀・マナー指導【情報モラル・交通ルール等】を徹底して行い、SWPBS(学校規模がポジティブ行動支援)につなげていきたい。来年度は、本校における校則(制服)見直し、道徳教育(全体計画)の見直しについて検討・協議していきたいと考えている。	A	○自治活動が進んでいると感じています。また、生徒の活躍はフェイスブックや新聞等でよく目にします。素晴らしいです。 ○交通ルール遵守の指導の充実を図ってください。
	64	34	2	0	A	いじめアンケートの実施やいじめ・不登校委員会での各学年からの情報共有や協議で、生徒が困ったことを相談できる雰囲気を作ることができた。特別支援に関しては、通級の授業において順調に行っており、専門家の人たちの協力を得ながら支援することができた。また、通級対象者以外の困り感のある生徒にも個別に声をかけ、定期的な面談などを行っている。課題として、情報共有はできたものの、具体的な手立てが取れないことがあった。次年度は、いじめ・不登校委員会で、情報共有以外に具体的な手立て等まで協議していきたい。また、保健室と連携して気になる生徒が安全・安心に相談できる雰囲気を作っていきたい。	A	○情報共有が大事です。引き続き生徒に寄り添った支援をお願いします。
進路保障	50	50	0	0	A	自己実現に向け効果的にキャリア教育を実践することができている。これは、単に進路指導の一環ではなく探究で学ぶ内容の中に組込んだことで成果をあげている。特に1年生のえびの学では、仕事鑑録の作成、ジョブシャドウイングなどの新たな取り組みが進んでいる。一方で入試や採用試験で必要な教科学習の支援については、入試制度の変革や雇用情勢に応じたものに転換する必要があり効果的な学習支援の在り方を探っていきたい。	A	○キャリア教育は、小中高12年間を通して「えびの学」のつながりの中で実践されています。高く評価できます。 ○個別最適な学び、効果的な学習支援の在り方の研究を進めてください。
	34	64	2	0	A	1学期に2週間程度、朝の読書週間を設けて読書推進を図った。生徒のアンケートによると新たな本に興味を持ち、読み始めるきっかけになったという生徒が過半数おり、朝読書の意義を感じた。また、オンライン講座に関しても、他校の生徒とつなぎ、探究活動の内容を共有したり、ブラッシュアップしたりと有効活用できた。読書の時間を設けることで、生徒に読書を促すことはできたが、今後はより自発的に、生徒自らが時間を見つけて読書する雰囲気を作っていきたい。またオンライン講座においてもより多くの生徒が受講できるよう、設定や開催を工夫したい。	A	○保護者を含めてICT活用講座を実施すると、ICTの活用の幅も広がるのではないのでしょうか。
心身の健康・安全	47	53	0	0	A	年3回各学年で、人権教育LHRを実施した。コロナ感染拡大前に1年生に「新型コロナウイルス感染症と人権」の授業で感染者への差別をしない指導、修学旅行前に2年生に「障がい者支援を考える」の授業で視覚障がい者の誘導体験を行った。生徒の関心も高く、人権意識を高めることができた。また、各学期2回人権だよりを発行することができた。次年度は、授業で扱えなかった人権内容を人権だよりを通して生徒たちに意識してもらいたい。3年間を見通した人権教育の在り方の見直しを図りたい。感染症対策を組織的に行えたことで、大きなクラスターの発生を防ぐことができた。また歯科の治療率を上げるために、個別に結果表を作成して治療を促したことで、治療率が向上した。一方で、生活のリズムの乱れから来る体調不良が多かったため、担任と連携を取って、保護者への指導や情報共有を行っていきたい。	A	○人権教育においては、シンパシーからさらに「エンパシー」へ高めることが大事だと考えています。次年度も引き続き工夫・改善に取り組んでください。
	25	73	2	0	A	年度初めに、清掃監督が清掃分担表を作り、生徒に責任感を持たせるというシステムを徹底したことで、生徒と職員の清掃への意識が高まり、取り組みも良くなった。課題は、生徒減により清掃区域を補充するだけの人員が足りず、管理が行き届きな場所がある。清掃割りを工夫していくしかない。	A	
地域社会や保護者との連携	48	48	4	0	A	昨年度作成したベンチかまどを活用して「防災体験デイキャンプ」を開催した。飯野小・飯野中にも参加希望者を募り、市の防災対策課からも出席していただき、充実した内容であった。次年度に向けては、今年度計画していたが新型コロナウイルス感染症のために実施できなかった、消防隊員による救急救命活動の指導やコミュニティセンターと協力して地域ぐるみの防災活動を行いたい。また、防災士の育成も3年目となり、女子生徒の参加も見られた。今年度は、新型コロナウイルス感染症の拡大を考慮しつつ、従来の取り組みを受け継ぎながら、新しい時代に対応したPTA活動を模索する形となった。PTA総会は書面議決の形で実施し、会員267名中256名の提出(95%)があり、全議案の承認を得た。全体理事会は6月に実施し、理事45名中31名が参加(69%)し、PTA会則の一部改正の提案を行った。また、各委員会活動において、PTA役員の皆様のご協力をいただき、限られた範囲ではあるが、充実した取組を行うことができた。母親委員会は県西地区母親研修会を11月に実施し、しめ縄作りを行った。生活環境委員会は7月に祭の巡回、12月に門松作りを実施した。広報委員会は年3回のPTA新聞の発行を行った。また、新しい取り組みとして、全国卒地区会(オンライン会)を2回実施することができ、情報交換の場として意義あるものとなった。なお、コロナ禍の影響などにより、PTA地区集会や学年懇親会は実施できなかった。少子化で生徒数も保護者数も減少傾向の中、どのようなPTA活動が求められているのか、皆様の声を拝聴しながら、本校PTA組織の在り方を見直していく。今年度も4月と11月の2回防災避難訓練を実施した。感染症対策を講じながら、生徒会を中心に自治的な活動をめざした。避難経路等を確認した後に消防署の方より講話をいただき、生徒・職員の防災意識を高めることができた。また、今年度は防災士の資格を取得し、探究活動で「防災」をテーマに活動を続けてきた3年生が発表を行い、防災意識をより増幅させることができた。防災士の資格取得希望者が今年度も数名おり、彼らと生徒会を中心に充実した自治活動を今後もめざしていきたい。「危機管理マニュアル」も各方面から意見をいただきながら、定期的に見直しを図っていきたい。防災計画も地域と関わりながら発展的に計画を進めていければと思う。	A	○活動成果が見えて本当に素晴らしいと思います。地域への活力を与えてくれる活動を行っています。 ○飯野高校の教育活動を、より地域に浸透させることが次年度の課題だと思っています。次年度のCSの活動で、その足がかりを作っていきたいと思います。
教育諸条件の整備、安全・安心な学校づくり	50	48	2	0	A	生徒の防災意識の涵養を図るため、学校内外における防災計画の整備や危機管理体制を充実させるとともに、地域における学校の役割を十分果たせるよう地域とともにある学校づくりを推進する。	A	○CSの活動として「防災体験デイキャンプ」を実施しました。また、学校全体で防災意識が向上しています。次年度は、小学生・中学生そして地域の方々を巻き込んだ活動の実践を期待しています。
小中高一貫教育	70	30	0	0	A	飯野地区小中高一貫教育推進事業では、コロナ禍の状況の中、8/23実施予定の「ようこそ先輩」以外は、計画通り実施することができた。また、今年度は、えびの市内の4中学校と本校普通科探求コース2・3年生と「ひなた場」を実施することができた。次年度もコロナ禍の影響はあると思われるが、17年目になる飯野地区小中高一貫教育推進事業を継続して実施する。また、えびの市教育委員会と連携しながら、「えびの学」(総合的な学習の時間)を柱として、えびの市内の小中高連携の充実を図っていきたい。	A	○飯野地区・えびの市ならではの教育です。継続して、充実した実践をお願いします。
普通科改革推進事業 教職員の働き方改革	30	57	13	0	B	令和3年度まで取り組んできた「地域との協働による高等学校教育改革推進事業(地域魅力化型)」を発展させるために、令和4年度より3年間、「新時代に対応した高等学校改革推進事業(普通科改革推進事業)」に取り組んでいる。今年度は、学校内にコーディネーターを配置して、事業推進のための組織体制の充実を図った。また、「地域学」のさらなる充実に向けて、自治体・企業・大学・NPO等との連携を強化していきたい。その一方で、教職員の「働き方改革」に向けた取組を加速化させる必要がある。	B	○新たな事業の成果を期待しています。 ○「働き方改革」を通して、先生方の職場環境の充実を図ってください。